

CCT2022 参加報告

華岡青洲記念病院 山口隆義

皆様こんにちは、華岡青洲記念病院の山口です。すっかり暗くなる時間も早くなり、1日が短く感じる時期となりましたね。こうなると、いつ帰っても同じかなーと思ってしまい、つつい遅くまで病院に居てしまいがちとなるのは私だけでしょうか？

さて、今回は 2022 年 10 月 27 日から 29 日まで開催された CCT2022 に参加してきました。CCT とは complex cardiovascular therapeutics の略で、難易度の高い心血管治療を、ライブデモンストレーションを中心に、その技術や知識を共有しようとする国際的な学術集会です。2020 年は開催中止となり、去年は web 開催だったので、今年ハイブリッド開催となりました。といいましても、私たちコメディカルは2日目までは web 配信のみで、最終日だけハイブリッドによる現地からの配信となったため、現地参加される方は残念ながら正直少ない状況でした。

私は、放射線部門のコースディレクターを務めさせて頂いておりまして、今回は CT セッションとして「冠動脈 CT ファースト時代の検査クオリティアップ術」と「この症例、CT でどう撮る!？」の2つを企画させて頂きました。冠動脈 CT 検査が虚血性心疾患のファーストラインの検査に位置付けされたことを踏まえて、各演者の皆様に検査クオリティを向上させるポイントなどをお話し頂きました。演者の皆様からは「基本に忠実に」「心拍コントロールが最も重要」という提言を頂きました。また、冠動脈だけではなく、循環器では多くの領域で CT が活用されておりますので、今回は“ステントグラフトエンドリーク 評価”“肺動脈・下肢静脈”“アダムキュービッツ動脈”“CRTD 植え込みマッピング”の4つを取り上げて、様々なアイディアによる診断精度の向上や治療支援画像などを披露して頂きました。ステントグラフトに関しては、Aquilion ONE による

4DCT撮影がエンドリーク評価に有用であるという内容でした。また、アダムキュービッツ動脈については Aquilion Precision の高精細画像によって、血管の連続性が確認できるといった報告でした。さらに CRTD に関しては、北海道のキャノンユーザである函館五稜郭病院の大須田さんから、CTによる冠静脈画像と心筋血流 SPECT とのフュージョン画像が有用であると報告頂きました。どれも素晴らしい内容で、充実した CT セッションだったと思います。

一般演題の審査員も担当し、アンギオや CT による興味深い研究発表を拝聴しました。最優秀賞は昭和大学藤が丘病院の橘高さんの「Angio FFR (vFFR) と Invasive FFR との比較」が選ばれたので、私の方から表彰状と記念品をお渡ししました。CT の形態画像から計算される FFRCT も、要件を満たす施設では利用されつつありますが、Angio FFR は、カテーテル造影の 2 方向画像から簡便に解析可能であり、こちらも注目されております。そのほかにも論文化に値すると思われる発表もあり、さらなる研究成果に注目です。

CCT で神戸三宮に行った際には必ずお世話になっているのが、“菊兆”という明石焼きのお店です。このコロナ禍で少し心配しておりましたが、3年ぶりに美味しい明石焼きを頂くことも出来ました。来年こそはオンサイトで賑やかに開催できる事を願っております。



